

2018 年 3 月 16 日

J S C A 指 導 者 検 定 会 ベ ー シ ッ ク 課 程 三 重 会 場 報 告 書

報告者：サニーコーストカヤックス
本橋 洋一

■開催概要

開催日：2018 年 3 月 13 日（火）～14 日（水）

会場：知識課目・三重県度会郡大紀町「語らいの里 嘶野」

技術課目・三重県多気郡大台町「三瀬谷ダム」

受験者数：2 名

認定者数：2 名

研修者数：1 名

主管：サニーコーストカヤックス

担当検定員：サニーコーストカヤックス 本橋洋一

シーカヤックステーション小山ハウス 森田渉

■詳細

3 月 13 日（火）

森田講師と集合時間よりも 30 分ほど早めに現地入りし、会場である「嘶野」のオーナー（カヤックベーシック取得済、今回は研修として参加）と講義を行う部屋の確認など準備を進めた。

受験者二名も到着し、2 日間のタイムスケジュールなどの案内をしてから講義を開始した。講義は「総論」「パドルスポーツの基礎知識」を本橋が担当、「安全について」を森田が担当した。



受験者の二名は公認スクール新規設立申請も考えており、非常に集中力高く講義、筆記試験に臨んでいた。

講義進行も講師二人で分担したので変化があり、飽きさせないよう工夫した。

「総論」ではホワイトボードを多用し、「安全」では実例を挙げたり受験者から話を聞き出すようにし、「パドルスポーツの基礎知識」ではカヤック本体など実物を見ながら構造について学んだりした。



特に今回からガイドラインが一部変更になったことを踏まえ、「パドルスポーツの基礎知識」の講義ではカヤックに限らず SUP も含むパドルスポーツ全般について話を広げるよう気を配った。

3月14日（水）

天候：晴れ、西の風 1～3m

集合後、練習時間を設けることでビデオ撮影の準備もできた。

「漕艇技術」検定を実施している最中はほぼ無風で、コンディションが良かった。おかげで受験者の二人は自分にできること、苦手なことなどをしっかり意識することができたようであった。



続く「指導技術」では研修者も交えて三人で行い、受験者の二人には二つの課題を実演してもらった。その後、フィードバックとして本橋が3つの課題を通して実演し、正解というのではなく色々なやり方がある中で、伝えなければならないポイントはしっかりと押さえなければならないことを伝えた。



休憩を挟んで水上に出、「漕艇技術」のフィードバックを実施。パドリングにおけるメリハリについて、目線について、そして筆記試験で理解度が浅いと感じたウェザーコッキングについて体感してもらった。机上講習だけではなくこうした機会も作れる検定会であることのメリットを活かせたと思う。

昼食後は「安全技術」講習。

セルフレスキューの手順を陸上で講習し、水上ではトーイングの練習、今後実際にカヤック体験で使用する予定であるシットオンのレスキューの仕方、コツなど講習した。

水温が11度と低かったため再乗艇の練習は一番最後に実施。運動神経の良い二人だったので問題なくできていた。



講習を終了し、片付けと着替えを済ませてから結果発表。二人とも合格で検定会を無事終了することができた。

今回、一日目の講義、筆記試験終了後の夜、「嘶野」に宿泊して公認スクール開設に向けて「公認スクール新規開設申込書」と「運行規定」の作成について相談にのり、様々な話をした。こうしたフォローは新たに事業を展開していく事業者にとっては貴重な時間となったと思う。協会として安全なカヌー活動の普及をしていく上で、検定を実施するのみならずもう一步踏み込んだ形で事業者をフォローしていくことができればと考えている。さらに、三重県は自然体験活動事業者間で連携を強めていこうという動きもあり、研修や各種講習など、自己研鑽の場をたくさん設けていければと思う。

以上